

第8回 明日のビジネスを担う 女性たちの交流会 in 大阪 開催レポート

2019年10月15日、大阪にて「明日のビジネスを担う女性たちの交流会」を開催しました。昨年に続き、NTTコミュニケーションズ監査役の小林洋子氏をコーディネーターにお迎えし、3名のパネリストとともに、大きな壁を乗り越えた経験や働く女性たちへのメッセージ等について語っていただきました。

※所属・肩書等は交流会開催時のもの



パネリスト

上内 まゆみ 氏
アルフレッサファーマ株式会社 取締役

人事部長のある日、当時の社長から「君はBSとPLが読めるか」と聞かれて「読めます」と答えたところ、突然経営企画部長に任命されました。求められるレベルと実力には大きな差があり、それを埋めるために学校に通い、書籍を読みあさるなど努力しても追いつかず、メンタル不調になったこともありましたが、「しっかりし、全力でやり」という当家の家訓を思い出し、乗り越えてきました。企業人として係数・数値を理解し、「数値に基づいたロジカルな判断と伝達力を持つ」ことの重要性を学びました。

私が仕事のうえで思っていることは、「目の前の仕事を一生懸命やろう」ということだけです。「今この瞬間を正しく見つめ不断の向上の道を歩む」は、座右の銘であり、陰日向く真摯に取り組んでいけば、絶対に目の前は開けてくると思っています。私は特段、管理職への昇進意欲はなく、任命された役割に全力で取り組んでいたら、今の立場を任せていただけることになりました。ただ、異動や職位が上がるたびに人の何倍もの努力をした自負はあります。目の前のことに絶対に逃げずにチャレンジしていく姿を評価していただいたのだと思います。

私がわが社で働く最大の目的は恩返しです。じつは就職試験の1週間前に入社することになり、受験ができないと諦めかけていたところ、会社の好意で1週間後に受験させていただき入社することができました。ですから、常々100の仕事に依頼されたら、120の仕事で返そうと心がけています。20が恩返しになればいいなと思いながら仕事に向かっています。



パネリスト

榎垣 真弓 氏
株式会社近鉄・都ホテルズ 取締役

最初の転機は、ある日突然発令に呼ばれ、当ホテル初の女性管理職になったことです。その時に全く異なる部署の女性から「私たちのためにも頑張ってくださいね」と言われ、私が管理職になったことでモチベーションを上げてくれる人がいるんだということを知りました。

そんな責任を感じながらも失敗はたくさんしてきました。でも失敗を経験すると、次は失敗しない方法を切磋琢磨しながらも考えます。その積み重ねで人は学びますし、成長していくと思うのです。失敗しながらも一生懸命あがいて頑張っている女性がいることを、まわりの男性にも知ってもらえるきっかけになっていたらいいなと思います。部下にも、「やる前に諦めないで、とりあえずやってみよう。駄目なら、もう一回考え直して次の手を考えればいい」と促しています。

その後、女性初の総支配人を務め、昨年からは取締役として17のチェーンホテルを統括する立場となりました。私自身は何も変わってなくて、目の前にある仕事をコツコツと頑張っていたらキャリアがついてきたという感じです。取締役という役職に見合う役割を果たしているかどうかはまだわかりませんが、「何でもやってみるのが私」と前を見て仕事をしています。旅行を決めるのも、ホテルを決めるのも、80%は女性とされている中で、ホテルの経営者側に立つ女性として、男性とは異なる視線での発言が少しでも役に立っていると感じていただけたら嬉しいです。



パネリスト

小谷 美樹 氏
積水ハウス株式会社 CSR部長

5年ほど住宅の設計に携わり、結婚を機に技術部に異動し、商品の研究開発に携わってきました。その間に出産をして7か月間の育休を取ったのですが、私が最初に仕事へのスイッチが入ったのはこの時かもしれません。育休中は平穏ですが刺激の少ない日々で、会社で挑戦している自分が好きだと改めて実感したのです。そう思ったら、復帰後は恐いものはなくなりました。夫とは同期入社ですが、どちらかが仕事を犠牲にするのではなく、



両親のサポートや託児サービスを利用するなど、仕事の軸は変わらず育児期を乗り越えました。当初は自分の仕事に集中していた夫も、ある時期から本気度が伝わったのか、すぐ応援してくれるようになりました。私も夫が頑張っていることが励みになっていますし、夫を巻き込むことも両立していくポイントではないかと思っています。

課長時代には部下を率いて省エネ住宅の開発を進めていたのですが、最終段階でお蔵入りになった仕様が、猛反省しました。良い開発だと思うのにどうすれば認められるかは、経営層が全体像をどのように考えているかを知ることで決まるということ学びました。プロジェクトを進めてきたことをなんとか無駄にしたいと思わず、経営層の意図を汲んで再度提案したところ、50周年モデルに搭載され、実現につなげることができました。「相手の地図を読め」とよく言いますが、それ以来、相手がどんな地図を持っているかを見極めて部下を引っ張っていくようにしています。

私にはひとつ夢があります。東京にはWAW!という国際女性会議があるのですが、大阪からもこのようなムーブメントを発信していきたいと思っています。



パネリスト兼コーディネーター

小林 洋子 氏
NTTコミュニケーションズ株式会社 監査役

初めて部下を持ったときに家族も参加するバーベキュー大会が行われたのですが、実際に部下の家族に会って、家族みんなの人生を背負っているんだと実感しました。その時に責任者としての覚悟ができたように思います。

役員になると、ほとんどが男性で、女性は異質な存在です。その「異質」を無理に改める必要は全くなく、むしろ強みにしたほうがいいと思います。私みたいにと異質を感じない人は、頑張って無理に異質っぽい振りをする必要はないと思うのですが、そう言っても客観的に見れば女性なわけですね。私もいわゆるオールドボーイズネットワークに入れてもらえず、若い頃はメインストリームの仕事を任せてもらえませんでした。失敗しても影響がないような末端の仕事ばかりをずっとやってきたので、失うものはなかったですね。派閥や付度も一切なかったからこそ思い切った提案ができたし、「それはおかしい」と発言できたことは、結果的に良かったと思います。

苦情を受けたり、あえて誰もやりたがらないような手間のかかる面倒で大変な仕事も選んでやりました。別に誰かに見てほしくてやっていたわけではなく、なんとなく自分の美学でやってきたのですが、ある時、「小林君はチャラチャラしていると思っていたけど、みんなが嫌がる下積み仕事をちゃんとやるんだね」と褒められて、会社ではそういう人がリスペクトされることを学びました。

チャンスが訪れたら、それは今のあなたが求められているのです。ですから、「私なんか」と断らないでほしいと思います。女性を部下に持つ男性には、一人ひとりの状況をきちんと見て、女性にも男性と同じように研修の機会と修羅場を経験できる仕事をアサインしてもらいたいですね。

福井会場も盛況のうちに終了!

2019年10月30日には福井市で「明日のビジネスを担う女性たちの交流会」を開催しました。福井市長の東村新一様からご挨拶をいただいた後、NTTコミュニケーションズ(株)監査役の小林洋子様が「女性ももっと活躍できる!」と題して基調講演を行いました。

続くパネルディスカッションでは、県内でご活躍されている女性3名が登場。基調講演に続き小林様にコーディネーターを務めていただき、(株)そごう西武 西武福井店総務部長の田中香苗様、(株)アタゴ 営業次長の笹岡千晶様、福井キヤノン事務機(株)チームSリーダーの鳥尾久美様から、管理職を目指す転機となった出来事や仕事のやりがいなどについてお話をいただきました。

後半は参加者の皆さんに未来予想図を描いていただくワークタイムを設け、ご自身のキャリアを見つめ直す場となりました。カフェタイムでは、地元産の野菜を使った美味しいベジスイーツをいただきながら和やかな雰囲気でお話を深めました。



編集後記

2020年は子年。人生100年時代となった今、健康であれば年女・年男を8回経験することになります。高齢者の雇用状況(2019年6月1日現在)によると70歳以上働ける制度のある企業は46,658社で、報告した全ての企業に占める割合は28.9%とのこと。そんなにあるのかと驚きました。生涯現役社会に向けた取組みは着々と進んでいるようです。自分はいつまで健康を保ち意欲をもって働けるか?と思いつつながら子年生まれの方は〇回目の年女を迎えます。皆様にとって良い1年となりますように。⑦

ダイバーシティ 21

DIVERSITY 21 vol.039

2019年12月25日発行

編集・発行

公益財団法人 21世紀職業財団
〒113-0033

東京都文京区本郷1-33-13 春日町ビル3階
TEL 03-5844-1660(代) FAX 03-5844-1670

<https://www.jiwe.or.jp>